

布哇教育會編纂

日本語讀本
卷四



もくろく

第一	金色のとび	一	第十二	水トカラダ	三十九
第二	兄弟	三	第十三	鹿ノ水カミ	四十一
第三	御禮の手紙	六	第十四	仕合わせ	四十四
第四	ボーイの目じるし	九	第十五	問合わせの手紙	四十七
第五	私のお友だち	十一	第十六	海ノ動物	五十
第六	熊のさ、やき	十五	第十七	メリーのきてん	五十五
第七	指	十七	第十八	土	六十
第八	會話	二十一	第十九	白すゞめ(一)	六十一
第九	犬	二十五	第二十	白すゞめ(二)	六十五
第十	おうぎのまと	三十	第二十一	塙保己一	七十
第十一	太郎の日記	三十五	第二十二	なさけぶかい兵士	七十五

第二十三	ナイチンゲール	八十	第三十六	蚕	百四十
第二十四	こすもす	八十六	第三十七	ふくろうの恩返し(一)	百四十三
第二十五	逃げたらくだ	八十八	第三十八	ふくろうの恩返し(二)	百四十七
第二十六	人をまねく手紙	九十八	第三十九	飛方のけいこ	百五十二
第二十七	航海の話(一)	百一	第四十	七里和尚 <small>りしやう</small>	百五十六
第二十八	航海の話(二)	百六	第四十一	招魂祭とぼん <small>しやうこん</small>	百六十二
第二十九	胃トカラダ	百十一	第四十二	アンドロクラスとし、(一)	百六十五
第三十	ねずみ	百十六	第四十三	アンドロクラスとし、(二)	百七十一
第三十一	リンカーン	百十九		かがい	
第三十二	しゃしんを送る手紙	百二十三		のらくら虫(一)	一
第三十三	ちえだめし	百二十七		のらくら虫(二)	五
第三十四	遠足の前夜	百三十二		若葉かげ	九
第三十五	象 <small>ぞう</small>	百三十五			

第 皇

第一 金色のとび

日本の一番はじめの天皇を神武天皇じんむと申します。この天皇が、悪ものどもをございばつになつた時、どこからともなく、一羽の金色のとびがとんで来て、天皇のおゆみの先にとまりました。その光がきらく〜とか、やいて、悪ものどもは目をあけていることが出来ません。その光におそれて、みんな逃げて行きました。

うばぐるま。
 そよよ風の
 吹く度に、
 すやく眠る
 赤ちゃんの、
 りんごのような
 ほつぺたに、
 ちらくゆれる
 日の光。
 わたしのひざの
 繪ざつしの、
 繪にもきらく
 日の光。

Copyright By
 HAWAII KYOIKU KAI, 1929.

昭和四年七月廿五日發行
 昭和十年八月十日第七版

所 著 者
 有 權

編 纂 者
 布 哇 教 育 會

製 印 者 及
 發 行 所
 合 衆 國 內 外 出 版 協 會

MADE IN JAPAN